

海津市まちづくり委員会「第6回希少生物保護育成分科会」会議録（概要）

開催年月日	平成20年 7 月 1 6 日（水）
開催場所	海津農村環境改善センター 1 階「視聴覚室」
分科会委員定数	11 名
開 会	午後 7 時 00 分
閉 会	午後 8 時 45 分
会議次第	1．開会 2．会長あいさつ 3．協議 （1）今後のスケジュール・検討内容について （2）現地視察について （3）その他 4．閉会

会	長	それでは協議事項に入りたいと思います。 ＜（１）今後のスケジュール・検討事項について＞事務局より資料説明をお願いします。
事務局		＜資料説明＞
森アドバイザー		今までの意見交換やＫＪ法によるワークショップを実施した事によって、「何に重きを持っていくか」という事が、大凡委員の皆様方に理解が得られたのではないかと考えております。 先程、事務局からも説明があった様に、「もう少し具体的にしよう」という事で、現地視察の案がございました。この海津市内にある希少生物についての実態や課題、特に水生生物を中心としたものが多かったかと思いますが、以前事務局より資料を頂いて、「海津市がどういう所か」という事をご理解頂けたと思います。 それを今度は現地で実際に自分の目で見て、「現状がどうなっているか」或いは、その現場に詳しい方に色々話を伺って「どんな苦勞をされたか」、「どんな事が問題になっているのか」といった事を、新たに共有していく必要があるかと思っています。 この分科会といたしましては、活動と同時に外部への活動として映画の試写会や、大垣市で開催された『湧くわく水サミット』にも海津市にご参加を頂き、市長の発表の中でこの分科会についてもご発言を頂き「今後、こうした水環境についてまちづくりの一環として進めていきたい」という事を情報発信して頂きました。 また、大江小学校では今月、地元の方の協力を得て、近所の水路で雑魚採りをしました。こういった学校教育の中で、地域の自然環境を教える活動をさせて頂きました。分科会に関わる情報の共有という事でお話をさせて頂きました。 ＜平成 20 年度 田んぼの仲間生息環境保全事業の紹介＞・・・岐阜県事業
会	長	それでは、今までの話の中で、ご質問等ございましたら、お聞きしたいと思います。 ご意見が無い様なので、次に移りたいと思います。 事務局より説明願います。
事務局		今後のスケジュールに関しては、現地視察で委員の皆様方に海津市の状況を十分に把握して頂いて、それを踏まえて提案書（案）作りに取り掛かろうと思いますので、よろしくお願い致します。 今まで、ワークショップ等で話しに出た場所が、南濃町に集中しているのですが、「この他に是非とも委員の皆様に見て頂きたい」とい

		う所があれば、ご提案頂きたいと思います。
D	委 員	北部浄水公園の隣に湿地があり、そこに自生しているハイドジョウツナギの話も出ていましたが、そこでの「ハリヨ」の保護も一つの提案として、当初から考えておりました。そこを現地視察の中に組んで頂きたいと思います。
事 務 局		ありがとうございました。 「蛸等今はいなくなってしまうっていても、昔はいたよ」という様な場所があれば、見に行ってもよろしいのではないのでしょうか。 現状を見て頂くのも、一つの提案素材になると思います。
D	委 員	絶滅危惧種を数えると大変な種類と数になります。この分科会として、「何に重点をもっていくかを取捨選択しなければならない」と私は考えています。
森アドバイザー		「何に重点をもっていくか」という順番ですね。 ですが、取り敢えず今は、現地視察という事で過去の事を含めて、場所を決めて頂ければと思います。事務局が言われた様に、今ではいなくなってしまった場所も、視察場所としてあってもよろしいかと思います。オニバスはどうでしょうか。
C	委 員	視察に関しては、一箇所ではなくて、海津市全体を見た方がよろしいかと思います。 オニバスとか、海津市全域に亘ってスポットがあればと思います。津屋川は南濃町だけではなく、養老町から流れてますので、養老町側のオオフサモの現状を一部見て頂きたいと思います。
会 長		養老町は取りましたよ。 あれは、南濃町側です。養老町側は源氏橋辺りから業者が取りました。
C	委 員	恥ずかしいのは海津市です。ハリヨの池に入る所は皆さんの努力で綺麗になっていますが、その下にも増えてきました。橋から南濃町側にたくさんあります。
会 長		先月通った時は、たくさんありました。
C	委 員	これは昨年の話です。

会 長	先月は堤防を上ってくと、たくさんありました。
森アドバイザー	オオフサモの話が出ましたが、昨年度、海津市と県で津屋地区のハリヨ池辺りは綺麗にしました。そして今年度、昨年度と同様に県が徐々に上流からクレーンで撤去する打ち合わせをしました。 先程、会長が言われた様にハイドジョウツナギとかハリヨ池とか、オオフサモの現状等、視察地として検討頂ければと思います。
D 委 員	今は梅林の所まであります。このままですと、揖斐川まで行ってしまうのではないかと思います。
C 委 員	泥水が津屋川に流れる所があります。雨が降ったりすると、田から水路を伝って津屋川の本流へ真っ白になった水が流れ込みます。それがヘドロになって堆積すると思うのですが。何故止められないのか。ある程度沈殿層を作って、流れない様にするのも一つの手かも知れませんが、担当課を調べてもらうのもよろしいかと思います。海津市にもリバーレンジャーがありますが、そこで報告しなければいけないのかとも思います。
事 務 局	泥水が津屋川に注ぎ込むのですか。
D 委 員	はい。
事 務 局	志津ですか。
C 委 員	志津です。
D 委 員	今おっしゃった様に、雨が降って水位が上がったりすると、そういう状況があるのですか。
C 委 員	結局、土場から流れ出すのではないかと思いますけど、その土場を「処置した方が良いのか」が問題になってくると思います。 こういった場所もリストアップすべきではないでしょうか。また、いなくなるものばかりではなく、悪さをしているもの等も視察の中に入れてはどうでしょうか。
D 委 員	山除川には外来生物で、ミシシッピーアカミミガメがいます。結構見かけます。あと、気になるのが鯉がたくさん泳いでいるのと、フナを見かけます。

		山除川に「何の為に沈床を置いたのか」も未だに分かりません。多分ハリヨの保護も考えておやりになったのではないかと思います、その割には役にはたっていない様な気がします。 恐らく山除川のハリヨは絶滅したのではないかと思います、ここでは「希少生物が前はいたのだから、元に戻す方法は何か」、「何が必要か」という事も提言の一つとして必要ではないかと思います。 「見てこよう」という事であれば、山除川も候補の一つに挙げて頂いてもいいと思います。
会	長	山除川は、ある企業が事故を起こして痛手になった事がありますよね。それで、目安として鯉を飼う様になったのでしょうか。
D	委 員	北部の浄水公園も鯉でいっぱいです。 そこには前からハリヨがいて、ちゃんと保護してあげれば育つと思いますが、今は鯉がいるものですからハリヨがいなくなってしまうすよね。 鯉って、ハリヨを食べるではないでしょうか。
森アドバイザー		あまりよくないですよ。
D	委 員	ブラックバスとまではいきませんが、結構肉食傾向が強い魚ですよ。何でも食べますから。
会	長	ブラックバスは駆除の対象になりますが、鯉は駆除出来ませんよ。ハリヨばかり優先するのもどうかと思います。
D	委 員	やはり、それもここで議論が必要ではないかと考えます。ハリヨを「どういった位置付けにするか」が大事だろうと思います。世界から眺めても、この地区にしかない魚なのですから、それを「どうやって保護していくか」という事の方が大事なのではないでしょうか。鯉はどこにでもいますから。
会	長	ですが、ハリヨだけ網かけて、止める訳にもいきませんし。
D	委 員	ですから、ハリヨはハリヨとして保護する場所を限定して、鯉と混同しない様な方法を考えれば、いくらでも出来るのではないかと思います。折角、そういう生物が現代に残っているのですから。消えてしまったらお終いです。これは海津市の大事な財産だと考えております。

事務局	今まで皆様にご協議頂きまして５箇所の候補地が出てございます。全部は回れないかもしれませんが、日程等ご協議頂ければと思います。
I 委員	南濃ばかりですが、海津や平田はいいのでしょうか。 時間はかかるかもしれませんが、色々指導を受けて、地域指定や保護区等を実施していくべきではないかと思います。「分かっている場所の問題点等調べてみる」のもいいかと思いますが、海津や平田の「昔、何々がいた場所」等を視察し、バランスを考慮したらどうでしょうか。確かに南濃が多いかもしれませんが、海津や平田にも視察の対象になる様な場所はあるはずなので、今後どうしてくかを検討する為、候補地に入れたらと思います。
D 委員	平田や海津の希少生物の保護目的として、そういう場があるのでしたら見に行きたいと思います。
C 委員	今、I 委員さんが言われた様に、海津市全域で見出さなければいけないと思います。 例えば水の色ですが、海津の方では赤い色をした河川があります。南濃町で言えば、田鶴川は濁って赤い様な色をしています。「何故、赤くなるのであろう」とか、「湧水がないから」なのか。「何故、差があるのか」等、そんな考え方も必要ではないのでしょうか。 海津や平田の方でも「本当に川が汚れて、魚は食べれなくなり、爆発的にジャンボタニシが増えつつある」といった、問題意識を持った考え方も必要だと思います。「ここの川の魚は食べれない」。では「何が原因で、食べられる様にするには何をすればいいのか」。こういった事も関わらなければならぬと思います。 大江川か中江川で、網を張ってモロコを捕まえるのですが、そのモロコが一時いなくなりました。ですが、「揖斐川の水を入れる事によって、川が綺麗になりモロコが再度発生して、漁師もたくさん捕まえた」という事もこの３～４年前にありました。 ですから、希少生物だけではなく、「ここの赤い川は、もう少し綺麗にならないか」という事も水に関わる事で、「ここを綺麗にする」と指定して、「皆でここに気を付けて貰う」等、これも一つの提案ではないでしょうか。
D 委員	綺麗な水路を少しでも取り戻そうという考えですね。
C 委員	「問題意識をどこに持つか」だと思います。
D 委員	おっしゃる通りで、稲が植わっている状態の時の水路と、刈り入れ

	が終わった後の水路の状態というのは差があります。冬の間というのは、水が赤く 3 ～ 5 cm 位の水で、稲が青々した状態の時は 50 cm 位の水で、いつも少しづつ流れている状態です。恐らく水門の開閉で、いつも水がある状態を作っているのではないのでしょうか。冬の間は水門の開閉がなくなり、閉まった状態になるので、その地区のモツゴ等、いなくなってしまうと思います。そうすると、生き残っているのはジャンボタニシやブルーギル・ブラックバス・ウシガエルとなってしまいます。
C 委 員	一度、そういう川を対象にして見て頂いて、「何とかなるものか」とか、「汚い所はそのままで良い」のか、「無視して綺麗で、生き物がいる所に力を入れる」のか、色々な方向から見たり、手を加える事によって、「現状より良くなったり、昔の状態に戻る可能性があるのではないか」というのも良くなる方向への一つのまちづくりだと思います。
D 委 員	経費はどこが持つのか等、色々問題は出てきますよね。
C 委 員	それは、別の問題で、とにかくこの委員会で提案するのですから、お金の事はよろしいかと思います。 ですから、良い所ばかりを見ずに悪い所を見て、よくなる方向への提案も一つだと思います。
事 務 局	ありがとうございます。 今までお話を頂きまして、「海津市全体のバランスを考慮しましょう」というご意見だったかと思いますが、この件につきましては、事務局におきまして、森アドバイザーのご指導のもと、半日ぐらいの行程で調整させて頂こうと思います。
森アドバイザー	前後して申し訳ありませんが、 平成 20 年度のスケジュールでございますが、8 月の視察や、これまでの議論を踏まえて、8 回以降の委員会で「何が重要か」、D 委員さんも言われましたが「何を守るのか」、「何を大事にするのか」が、明らかになってくると思います。それから「現状や実態がどうなっているのか」、そして「それぞれの問題は何なのであるか」等、次回の視察の段階までにより明らかにする。そしてそれを踏まえてシナリオを作る必要があるかと思います。「何に一番重みを置いて、何を具体的にやっていくのか」という事の大凡のストーリーを 8 回以降決めていく事になります。

そして、それぞれの問題点というのは、お話を伺っていると、「物理的にコンクリートの側溝になっている」とか、「水質が悪化する物が入ってくる」とか、「外来種が出てくる」等、一つの要因ではなく、「希少生物になった理由」というものがいくつか具体的に出てきて、整理が出来るかと思います。

更に、その整理された理由の中で、「海津市は何をやっていこうか」という事が、次の問題になってくると思います。先程の浄水公園の「ハリヨ・鯉の問題」に関しましても、二者択一的な議論では無く、あそこには、元々鯉はいなかった場所で、そこに鯉を放流しているという行為について考えてもよろしいかと思います。しかも鯉ヘルペスで色々な問題があって、食べる事以外に移動させる事は、法律で禁止されています。

纏めて整理すれば、「何処で、何を守っていこう」という事は、D委員さんが言われた様に、やり方はたくさんあると思います。「海津市にハリヨだけがいれば良い」という事ではありません。

あと、視察につきましては、ご議論頂いた事で比較的広い範囲で、ただ見て回るだけでは意味がありませんので、その場その場で詳しい方に説明を頂く事になるかと思います。山除川に関しましては、ハリヨは壊滅しております。湧くわく水サミットで市長が「山除川にもいます」と言ってみえましたが、ここ2～3年調査をしておりますが、確認は出来ていません。

ここで、是非皆様方にご理解頂きたいのは、ハリヨだけの問題ではなくて、「湧き水が無くなって、海津の水環境が劣悪になったという証である」という事をお考え頂きたいと思います。

また、別件になってしまいますが、多度の子ども達と十数年、水生生物調査を実施し続けております。そこで、子ども達の感想を聞くと、この調査を実施して「多度川が好きになった」とありました。女の子の話の聞くと「泳ぎに行っても気になる川です」との話が出ました。ですから、山除川に関しましては、「随分魅力が下がった」と言わざるを得ないと私は認識しております。

そして、子どもの事に触れましたけど、大江小学校であったり、県事業の雑魚捕りであったりと、子ども達への発信もこの事業の中、或いは提言書の中で考える必要があるのではないかと思います。もちろん個々の希少種という事と同時に、年配者だけが話をしているのではなくて、我々の知見を子ども達に伝えていく手法やチャンス。例えば、昨年海津市が主催した子どもまちづくり講座では、大きな鯉が捕れた川で、川に対する子ども達の思い入れは、「ただ単に、水という液体物質が流れているものではない」という事をリアルに体験できたと思います。ですから、子ども達との連携或いは、小学校との連携も考え

	ておく必要があると思います。 それと、古老の話です。魚を捕るトラップ等もそのまま廃棄される可能性があります。或いは、若い人の代になった時、焚き付けにされていると聞いております。市として、こういった物を保管する様な事をやって頂くとか、資料を収集したり等も、魚に特化した話ですが、魚捕り用の罟も極めて重要な物であるのではないかと思います。その辺りの情報もまた頂きたいと思います。 最後に、C委員さんが言われた様に、「魚だけの問題ではなくて、水環境の問題としてやっていく」という事を再度認識頂ければと思いますので、よろしくお願いします。 スケジュールに関しては、7回に視察。8回・9回で、今申し上げた事を事務局案として整理頂いて、審議の議題として進めて頂ければと思います。
事務局	ありがとうございました。 最後になりましたが、D委員さんより、本日お持ち頂きました、車軸藻についてのご報告を頂きます。
D委員	昔はたくさんありましたが、この30年程、田ん圃の中で見かけた事のない水草ですけど、車軸藻という非常に珍しい藻類です。インターネットで調べると、植物の研究をされる時の題材になる様な事も書いてございました。 今保護してございますが、絶滅危惧種のA-1類に入っています。
事務局	ありがとうございました。 先程の現地視察でございますが、8月11日(月)に実施しようかと思います。詳細につきましては、森アドバイザーにもご指導頂きまして調整させて頂きますので、よろしくお願い致します。
会長	他に何かございますか。 それでは、大変長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして海津市まちづくり委員会第6回希少生物保護育成分科会を終了いたします。 (20:45 終了)